

自分から動いたら大きな世界とつながることができた ▶ 国際学部 国際理解講座

当日の様子は
こちらからご覧
いただけます。



YouTube

国内外で豊富な国際体験を積み、偶然に導かれてある外資系有名企業の同じ職場で再会した2人の国際学科卒業生。多国籍の同僚たちに囲まれて、いつも趣味のように仕事を楽しんでいるという2人に、大学時代からこれまでのライフストーリーを語っていただきました。



■ 英語がうまくなるには

岡田 大学に入ったとき僕は勉強が苦手で、カナダに留学したかったのですが、交換留学のプログラムに落ちてしまいました。でもどうしても行きたかったので、プレゼンして両親を説得したのです。ようやく半年間行けることになって、両親に2回電話した以外は日本語を喋らず過ごしました。苦労したけれど、人生を変える人たちに会った日々でした。

細井 アメリカにはいろいろな国からいろいろな人が来て暮らしていて、なまりもそれぞれです。完璧な文章で英語を話さないと、と思ってアウトプットできなくなってしまう人がいるかもしれないけれど、英語は単なるツールですから、大切なのはコミュニケーションが取れること。何度も間違えてうまくなくなっていくものなので、アウトプットに挑戦してほしいです。

■ 人とつながることが一番大切

岡田 日露学生会議というものに、国際学科の学生として参加しました。その時に会った学生たち

とは、日本人もロシア人も今でもつながっています。そういう、学内外の人たちとのつながりは、人生の宝物となっています。ロシア人の妻と出会ったのも東海大学でした。卒業する前に、海外の友達の家を転々としながら旅行をしたのが、本当にいい思い出になっています。

細井 学生時代には、学科を通じてアメリカの政府系機関でインターンシップをしました。そのときに会った友人たちとは今でも定期的会っています。彼らは、医師や弁護士、ビジネスコンサルタントとして多方面で活躍していて、お互いに刺激をもらえる大切な存在です。学生時代の経験やネットワークが今の自分につながっていると強く感じます。その後広告業界で働いてきましたが、英語ができたことで、さまざまな業界の著名な方たちと仕事する機会に恵まれました。

■ 国際学科はユニークな学科

細井 いろいろなプログラムが用意されていて、さまざまな体験ができるところが国際学科のユニークさです。留学はもちろん、大学のキャンパスにも留学生がたくさんいて、国際色豊かな場所なのです。4年間でたくさんの友達を作ってくださいね。

■ 失敗をおそれず行動する!

岡田 僕は学生時代に既存のサークルに入らなかったのです



が、それはゼロから新しいことにチャレンジしてみなかったからです。でも、何をしたいのか分からなかった。そこで、ゼミの先生にアドバイスをもらって、ブラジル人の子どもたちに関わるボランティア活動に打ち込みました。学生時代に失敗しても失うものは何もないし、失敗から学ぶことの方がずっとためになる。トライしてそこから学べばいいのです。

細井 新しいことにチャレンジするとき、失敗することよりも、トライしないで終わることの方が怖いと思うのです。起きてもないことを考えて萎縮するのではなく、まずは行動してみないと。

■ 企業が求める人材とは

岡田 今の会社で採用に関わることもあるのですが、企業が求めているのは、いい意味で周りを気にせず自分でどんどん動けるような人、プロアクティブに(前向きに)行動できる人です。特に海外とつながる企業や外資系の会社はそうです。

細井 就職活動でも、武器になるのは、自分にはこんな経験がある、と言えること。語学を含めて、自分にはこんなことができるというアピールです。その意味で、少しでも興味のあることがあれば、いろいろなことに挑戦してください。



岡田 スコゴレフ康平さん
Kohei Okada-Skogorev

■ 2009年度卒業。在学中はブラジル人コミュニティでのボランティア活動に打ち込む。3年次にカナダ留学。卒業後、ファーストリテイリング入社。退職してカナダに渡り、2013年に帰国。FREITAG入社。2017年から現在の国際的スポーツメーカーに勤務。



細井 駿さん
Shun Hosoi

■ 2010年度卒業。在学中はシラキュース大学に交換留学、ワシントンセンターのインターンシッププログラムに参加。卒業後はシカポールと東京を拠点に、広告・マーケティング業界でキャリアを形成。2020年から現在の国際的スポーツメーカーに勤務。

